

獅子舞がつなぐ 地域の絆



布気の獅子舞は江戸時代から伝わるとされ、布気皇舘太神社において五穀豊穡・無病息災・家内安全を祈願して始まったもので、その後、戦争や戦後の担い手不足などの困難を乗り越えながら受け継がれ、昭和31年に亀山市無形民俗文化財に指定されています。

3年に1度、舞年(丑・辰・未・戌年)の正月三が日に行われていましたが、コロナ禍による前回の中止を経て、令和6年の獅子舞は6年ぶりの開催となりました。

獅子舞に携わる人は布気町野尻自治会の皆さんで構成され、親・子・孫と代々参加する人や、子どもの頃に口取を経験した人が御頭や笛、太鼓を担うようになることもあります。代々受け継がれてきた舞と演奏は、手引書や楽譜などがなく、師匠や相談役から直接指導を受け、口頭で伝えられてきています。また、周囲へのあいさつや獅子を扱う前の礼、食前食後の祝詞など礼節の考え方が子どもから大人まで大切に守られています。

～ 神役紹介 ～



1 口取(くちとり)…天狗の面を被って獅子の相手を務める **2** 御頭(おかしら)…獅子の中に入って舞を行う **3** 笛・太鼓…獅子の舞に合わせ演奏し、動きの緩急を音色で表現する **4** 獅子頭…普段は神社に祀られ、三が日だけ登場する(本番までは練習用の獅子を使う) **5** 銚(ほこ)…獅子舞の巡行を先導する



1月1日(祝)～3日(水)、布気の獅子舞が行われ、布気皇館太神社をはじめ、神辺地域の各公民館や住宅、事業所など、3日間で200カ所以上を練り歩きました。

各所で、勇壮で華麗な舞が披露されると観衆からは大きな歓声と拍手が起きていました。また、巡行の際に行う頭噛みの場面では、獅子の迫力に泣き出してしまう子どもの姿も見られ、家族や周りの人たちは、子どもの健やかな成長を願って優しいまなざしで見守っていました。

布気の獅子舞の構成



1 四方舞(しほうまい)…四方の厄を払い、舞い清める 2 乱曲(らんぎょく)…口取と一緒に酒を飲み、獅子が勇壮に激しく舞う 3 お湯たて…春のもみ種の発芽を促す浸水のお湯で、四方を清める 4 鉄砲撃ち…笹竹に鳥もちを付け、鳥を獲る余興 5 花の舞…笹竹は稲を表し、稲の害虫を追い払い、五穀豊穡を祈禱する 6 獅子頭の還幸(かんこう)…すべての舞を終え、獅子頭、天狗の面、鉾を本殿へ納める

6年ぶりの獅子舞、感謝の気持ち

Interview
野尻自治会 会長 仲野 生作さん(鉾)



— 励ましの声を力に

自治会長として臨む初めての獅子舞ということもあり、経験があまりない私は、うまくやっていけるか心配でした。一方で、獅子舞がようやく実施できることは、ありがたく思っていました。開催が決定すると、他の地区の人からは、「大変だけど、頑張ってください」と声を掛けていただきました。

— 3日間で、神辺地域の6地区を巡行

各地区とも、お子さんからお年寄りまでたくさんの人が見に来ていました。たくさんの方の応援と、「伝統文化である獅子舞を今後も守り続けてください」とのエールをいただきました。布気の獅子舞は静かに舞う場面もあり、荒々しく舞う場面もあります。緩急をつけて舞う姿は、まるで目の前に生きた獅子がいるようで、最高でした。

約2カ月間毎日、みんなが心をひとつに練習や準備を行ってきたことと、各地区の皆さんのサポートのおかげで、すべての行程を無事に執り行うことができました。



落針地区



道野地区



太岡寺地区



小野地区



木下地区



山下地区

世代を超えて、大切な心をつなぐ



Interview

佐野 光弘さん(師匠)

— 獅子舞を通して大切なことを伝える

今年で獅子舞に携わって42年になります。口取の子どもが伸び伸びと元気に楽しそうに舞う姿を見せたいので、子ども自身が練習に来るのが楽しみになるような雰囲気作りを心掛けました。子どもや若手には、舞だけでなく周囲への礼儀や感謝の気持ちを持つことも伝えています。

— みんなで取り組んだ経験が、一人ひとりの成長に

子どもも大人も無事に成功できるように全員が一丸となります。各地区巡行中には、普段あまり会うことができない人や幅広い年齢の人と交流でき、地域全体の絆が深まります。獅子舞に関わった全員が参加して良かった、楽しかったという気持ちになることもやりがいのひとつです。

子どもたちには、獅子舞を最後までやり遂げたという経験が、将来直面するさまざまな場面で自信となってくれば幸いです。今年は孫(口取の阿部蓮太郎さん)と一緒に参加でき、私にとっても特別な経験になりました。約2カ月の練習、正月三が日を一緒に過ごした時間は、とても楽しく一生の思い出になりました。



たくま 逞しく成長した未来の担い手

Interview

神辺小学校 4年生 仲野 碧希さん (口取)

神辺小学校 3年生 阿部 蓮太郎さん(口取)



「練習も本番も、れんちゃんが支えてくれて心強かったです」と碧希さん(写真右)
「あいさくんがいたから、元気に楽しく舞うことができた!」と蓮太郎さん(写真左)

— 大きくなったら御頭になりたい (仲野 碧希さん)

学校の後、練習に行ったり、いろいろな舞を覚えたりするのは難しかったけど、師匠が毎日繰り返し丁寧に教えてくれました。ぼくがうまくできないときには、師匠から「全部の舞を大きく舞え」と教えてもらい、本番も大きな舞ができたと思います。

たくさんの方が見に来てくれて緊張したけど、最後の舞い込みでは、今までで一番楽しく舞うことができました。御頭の舞をそばで見ている、大変そうだったけどとても楽しそうだったので、ぼくもいつか御頭になりたいです。



— 獅子舞はカッコいい! (阿部 蓮太郎さん)

ぼくが赤ちゃんの頃の頭囃みの動画や写真を見ながら獅子舞のことを教えてもらいました。「本番、元気にやってね!」など、みんなから前向きに楽しくできるような声掛けをしてもらって、楽しく舞うことができました。

地区を回ったときに、友だちが見に来てくれたので、うれしかったです。御頭の人から話を聞いたり、実際に獅子を舞わしている姿を見たりしてカッコいいなと思ったので、ぼくも大きくなったらやってみたいです。



次代へ受け継がれる舞

Interview

仲野 照章さん(御頭後役)



— 御頭として最後の舞、その想いは若手へ

前回より周囲の声援がすごく、獅子舞に対する期待の高さを直接感じることができてうれしかったですし、その声援がすごくパワーになりました。

後役としてみんなをひとつにまとめるため、全体に気を配り、気になる所は師匠に相談して改善しました。自分自身の言動で周囲を引っ張る責任がある立場であることを意識していましたが、謙虚な気持ちも忘れず、後輩にも助けられながら最後まで舞うことができました。

獅子舞はチームプレーです。分からないことがあったら必ず問いかけ、誰かが失敗したときには、みんなでフォローします。そのために、普段からのコミュニケーションを大切にしています。子どもの頃からある布気の獅子舞の灯がいつまでも消えぬよう、次世代に受け継いでいってほしいです。



Interview

佐野 晃基さん(御頭新役)



— 全身全霊で挑んだ憧れの御頭

小学生で口取として参加したときから、御頭をしたいと思っていたので、とても楽しく舞うことができました。

御頭は獅子を持つということで、口取のときとは違ったプレッシャーや緊張感、責任感がありました。本番用の獅子は練習用の獅子とは全くの別物で、重さと大きさに衝撃を受けました。無事に3日間、大勢の人の前で舞うことができ、「令和最初」「6年ぶり」にふさわしい獅子舞になったと思います。

同じ舞でも人それぞれ「クセ」や「味」が出ます。先輩方は、今までの経験に基づく魅せ方がすごいと感じました。次回は覚える舞(乱曲)も1つ増え、さらに大変になると思いますが、今回の経験を生かし、師匠からのアドバイスを元に、良い獅子舞を作り上げたいと思います。また、新役として入ってくる後輩に、今回学んだことを伝えていきたいと思っています。

伝え続けたい、地域の誇り

Interview

前自治会長 佐野 誠一さん(相談役)



— コロナ禍を経て、より強い結束力に

前回実施した平成30年の獅子舞終了後、「次回、また頑張ろう」と言っていたので、中止は本当に残念でした。コロナ発生から1年、2年、3年経っても完全な終息はなく、継承への心配が募りました。それでも皆、獅子舞継承の思いは強く持ち続けていたため、ようやく迎えた今回の獅子舞は、全体の結束力が一層強くなっていました。コロナ禍をきっかけに、地域住民同士の付き合いが減少し、当然、獅子舞の申込軒数も減少するだろうと思いましたが、今回の獅子舞に際し、規模が縮小することはありませんでした。

— 次代へつなぎ、守り続けていく

私たちの地域も他の地域同様、子や孫たちが外へ出ていき、新しい住人が増えてきています。さまざまな人が暮らす現在ですが、お正月三が日の獅子舞には、多くの人が集い、巡行に付いて回ります。各家々で行われる祈禱の舞を楽しみにしている人が大勢います。今後の継続について不安な気持ちもある反面、毎回少しずつ新人が入ってくることも楽しみです。私たちは、布気の獅子舞を次代へつないでいくことに強い責任と誇りを持っています。これから地域一丸となって守り続けていきたいと思っています。



問合せ先

<市の無形民俗文化財に関すること> 文化課まちなみ文化財グループ (☎96-1218)
<獅子舞の取材内容に関すること> 広報秘書課広報グループ (☎84-5021)